

がんの「一次予防と機能性消化管疾患」専門外来

北海道がん診療連携指定

病院である国立病院機構函

館病院（加藤元副院長）は、

がん予防センターの役割を担い、がんの一次予防に力を注いでいる。また道南の自治体とも連携し、がんの出前講習会や出前検診を実施。さらに国立病院機構八雲病院の「重症心身障害病

床」の一部（60床）が20年8月18日に移転され、それに対応した病棟を増築、セー

フティネット機能を担う病

院に生まれ変わった。



院に生まれ変わった。

国が50歳以上を対象に実施する「胃がん検診」は、がんの二次予防に該当する。

同病院が力を入れる「ピロリ菌検診」は、「胃がん検診」の対象にならない50歳未満の若年性胃がんにも対象を広

げピロリ菌の有無を調べて除菌する一次予防にあたる。加藤院長は「中学・高校生を対象に除菌治療を行えば、がんの発症率は格段に低くなる。また未成年の時期に除菌を行うと、結婚後、次世代の子どもへの家庭内感染を事前に防ぐことができる」と、ピロリ菌検診による一次予防の重要性を説明する。

その「ピロリ菌検診」は、尿検査だけでピロリ菌の有無を判定でき、しかも30分のスピード判定。検診料も1000円（税込）と格安だ。陽性の場合には内視鏡検査と除菌治療（保険適用）を行う。

同病院では胃がんのほか、「大腸がん検診」（1000円・税込）や「肺がん検診」（5400円・同）、「乳

がん検診」（6000円・同）を実施している。

大腸がん検診は、希望に応じて便潜血キットを郵送。

肺がん検診は最新の「低線量CT」による検査。低線量CTは胸部X線と比べ、詳細かつ早期の腫瘍を発見でき、肺がんCT検診読影認定医が行うので安心だ。

機能性消化管疾患の「専門外来」も充実している。「便秘外来」は消化器内科の専門医の津田桃子医師（火曜日午後）と水島健医師（金曜日午後）が担当。便秘は残便感や排便困難が主な症状。患者のほとんどが腸管運動が低下する機

「専門外来」も充実

能性腸疾患の患者。一般に普及している刺激性下剤は服用しているうちに薬の量が増え、症状が悪化するの

で、治療にはなるべく刺激性下剤を使わず、新しい上皮機能変容薬（グーフイスなど）を使用している。

さらに20年9月には「胃もたれ腹部膨満外来」（木曜日午後）を開設、こちらは水島健医師が担当。これは機能性の胃疾患（ディスぺプシア）を対象とする専門外来で、便秘や下痢のような排便障害を伴わず、腹部が張って苦しいといった症状を呈し、内視鏡検査でも所見がないため、一般の病院では不定愁訴と診断されがちの疾患だ。



▲加藤元副院長

「がんの啓蒙と簡便な検診で一次予防に努めると同時に、機能性消化管疾患の専門治療に力を入れることで、道南の地域医療に貢献したい」（加藤院長）

地域密着

医療最前線

独立行政法人国立病院機構 函館病院

函館市川原町18番16号 ☎ (0138) 51-6281

<http://hnh-hosp.jp/>